

困った時だけ神様、仏様…

JJ1SXA/池

「困った時には神様、仏様」という言葉がありますが、現在、世界の主な宗教とみなされているのはキリスト教、イスラム教、仏教とのことです、他にもヒンドゥ教、ユダヤ教等もあります。(Wikipedia による)

旧約聖書は、ユダヤ教の教えですが、ユダヤ教の改革運動をしたことによって処刑された人物がイエスキリストですが、イエスの死後何百年もたってからイエスの発言や、いろいろな奇跡を起こしたという出来事が福音書という形で纏められ、やがてローマ帝国がキリスト教を国の宗教に定めて、たくさんある福音書のうち4つの福音書だけを正式なものとして認め、この4つの福音書をまとめたものが新約聖書です。

現在イスラム教徒にとっては、旧約聖書も新約聖書も神様の言葉で、どちらも大事だが、最後に神様は最後の預言者としてアラビア半島のメッカで生まれたムハンマドを選んで、言葉を下さった、それを纏めたのがコーラン、だからコーランが一番大切なものだということのようです。

一方、仏教の方は、もともとバラモン教徒として育ち、後にブッダとなるゴータマ・シッダールタにより、バラモン教からヒンドゥー教が生まれ、彼は悟りを開き、仏教が生まれました、いずれも輪廻転生、つまり生きとし生けるもの、生き物はすべて死んだあと、また生まれ変わるという考え方です。

この輪廻の輪から外れることができれば、心の安静が得られるのではないか、この輪から離れるために一生懸命修行をしよう、信じようということになり、それが解脱です、解脱とは死んだら二度とこの世に戻ってこないということ、二度と生まれてこないようになることが仏教の理想のようです。

聖書とコーランの関係は、神様は先ず人々に神の言葉を伝えた、それが旧約聖書の形で纏まった、しかし、ユダヤ人たちは、その神様の言葉を誤解したり、曲解したり、ちゃんと守っていない、そこで神様はイエスを選び、イエスに対して新たに神の言葉を伝えた、それが新約聖書になった、それなのにキリスト教徒たちもまだ神様の言葉をちゃんと守っていない、そこで神様は最後の預言者としてムハンマドを選び、神様の言葉を伝えた、これがコーランになったというのがイスラム教徒側の見方です。

…(以上、池上彰の教養講座を参考)…

世界では、宗教にまつわる争いが絶えない、特にイスラム教徒圏とキリスト教徒圏の理解の無さが顕著な気がする、基に遡れば、行き着くのは同じ神様、争う必要は無いのだが、難しいようです。

「信ずる者は救われる」という言葉がありますが、「何時もは信心心など無く、困った時だけ神様、仏様」の私には、助けてくれる神様や仏様はいなくて当たり前なんだろうが、宗教にのめり込み、凝り固まるよりましかと思っている。